

令和 3 年度 文部科学省

専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト

環境由来の健康問題に対して対応できる建築系人材育成のための

教育プログラム開発

成果報告書

令和 4 年 2 月

合同会社 LP エデュケーション

目次

1. 事業概要

1-1. 事業の趣旨・目的等について

1-1-1. 事業の趣旨・目的

1-1-2. 学習ターゲット、目指すべき人材像

1-2. 事業背景

1-2-1. 当該教育カリキュラム・プログラムが必要な背景

2. 開発報告

2-1. 開発概要

2-2. コマシラバス

3. 参考資料

1. 事業概要

1. 事業概要

1-1. 事業の趣旨・目的等について

1-1-1. 事業の趣旨・目的

環境由来の健康問題にはアレルギーやシックハウス症候群、化学物質過敏症等があり、そのうちアレルギーに関しては二人に一人が罹患しているといわれる。またシックハウス症候群や化学物質過敏症といった化学物質による健康被害も依然と存在する。

これら問題を解決するためには若い世代からその問題について知識や対応できる能力を有する必要がある。そこで建築分野に関して、ただ単にハード面の住宅及び建築設計のみでなく、アレルギーやシックハウスに罹患しにくい生活スタイルを含めたそこに住まう人の住まい方といったソフト面を伝える必要性があると考え。これらの一部は建築専門学校でも知識レベルで取り上げられるが、知識を現場対応という実践力に結びつけるには、それぞれのテーマを掘り下げたアクティブラーニング等の主体的な学びを導入し、教育内容の一層の充実化を図る必要がある。

そこで本事業では、これらの実践力の修得を目的とする教育プログラムを開発・実施し、健康へ配慮した建物への対応力を備えた建築系人材の育成を通して地域への貢献をめざす。

1-1-2. 学習ターゲット、目指すべき人材像

●学習ターゲット

建築業界で働く人材全般

●目指すべき人物像

アレルギーやシックハウス問題等の環境由来の健康問題に配慮した住宅を提案・設計することのできる専門家

●想定する活躍の場

全工務店・建設会社に当然のように受け入れられる状況を想定する

1-2. 事業背景

1-2-1. 当該教育カリキュラム・プログラムが必要な背景

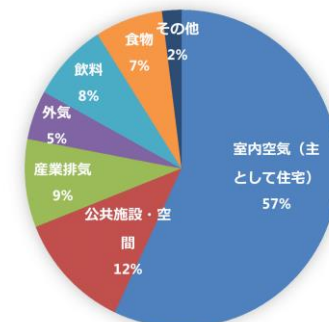
●室内空気環境と健康の関連性

環境由来の健康問題にはアレルギーやシックハウス症候群、化学物質過敏症等があり、そのうちアレルギーに関しては2人に一人が罹患しているといわれる。

【図表1】に示したのは人体が一日に摂取する全物質の摂取量を重量比別にグラフ化したものである。ここからもわかる通り、室内空気からの物質摂取は全体の5割以上を占めるものとなっている。

そもそも「室内」とは自宅のみならず、職場、学校、病院や（介護養護）施設、そのほかの公共あるいは民間の建物など多岐にわたる。WHO（世界保健機関）でも室内空気質の汚染は主要な病因あるいは死因の一つであるとしており、汚染の原因になるのは化学物質や微生物・真菌などの生物、室内の湿気の上昇によるダンプネス（湿度環境の悪化で結露やカビが生え住宅にダメージを与えている状態）など多様な原因があげられる。

人体の全物質摂取量（重量比）



現代人は一日の90%近くを室内で過ごす
室内空気からの物質摂取は大きい

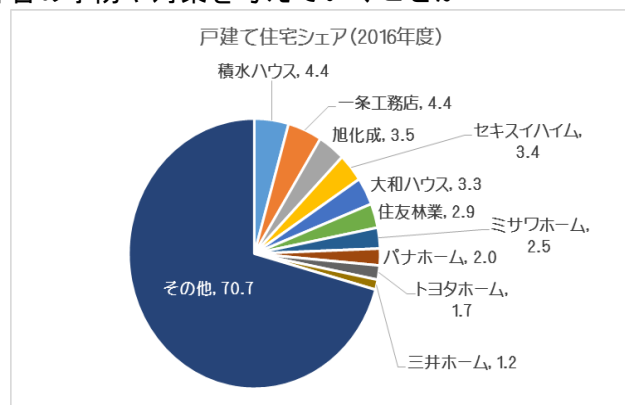
【図表1】 人体の全物質摂取量（重量比）
出典：厚生労働省（居住環境とアレルギー）

●国や自治体における室内環境改善に関する試み

2002年には厚生労働省による13種の室内化学物質濃度指針値が示され、2003年には建設省および引き継いだ国土交通省による建築基準法の改正、さらに2009年には文科省による学校の環境基準の設定、また、住宅や学校新築時には濃度評価して引き渡すように法制度改正がなされるなど、過去20年、我が国の各省庁が室内空気環境の改善に向けて様々な対策を行ってきた。しかし、シックビルディング（ハウス）症候群や化学物質過敏症は、それぞれその原因となる化学物質や環境濃度は個人によって大きな差異があることから、非常に多くのリスク要因の除去を考えながら、健康障害の予防や対策を考えていくことが今後の課題であると考えられる。

●建築業界における室内空気環境改善に関する試み

建築業界においてもシックビルディング・ハウス症候群等が世間で注目を集めるようになって以降、大手企業や業界団体を中心に「建築業界における室内空気環境改善に関する試み」（2003



【図表B 戸建て住宅シェア（2016年度）】（住宅産業研究所）

年：一般社団法人日本建材産業協会他）といったような、室内空気環境汚染の原因物質を規制する動きはあるが、住宅建築業界とくに戸建て市場においては、いわゆる大手と呼ばれるハウスメーカー10社を合わせても全体の30%ほどであり、全国に10万軒ある地場工務店が70%以上の圧倒的多数を占めるという現状があることから、業界内で働くすべての人材にそのような意識あるいは知識が十分にあるとは言い難い。

【図表 1】人体の全物質摂取量（重量比）

出典：厚生労働省（居住環境とアレルギー）

【図表 B 戸建て住宅シェア（2016 年度）】（住宅産業研究所）

●建築業界の現状

2020年の東京オリンピック開催を控え、建設需要の高まりから、業界全体としては好景といえる。一方で建築業界における技能者（建築士等）の約3割が55歳以上の高齢者となっており、他産業と比べて高齢化が進行している。業界が引き続き重要な役割を果たしていくためには、将来を支える担い手の確保が急務となっている。特にすでに業界で活躍している若者への教育や定着の促進などに重点を置き、中長期的に人材確保・育成を進めていくことが重要である。

●建築業界におけるニーズの多様化

近年は、高齢者や障がいのある人でも暮らしやすい「バリアフリー設計」や、地球環境に配慮した「エコハウス」、「ソーラーシステム」など、施主が建築に求めるものが多様化していく傾向にある。さらにいわゆる健康住宅と呼ばれる分野において、建材や高気密と換気システムの調和などハード面のみでなく、そこに住まう人の住まい方などのソフト面を伝える人材が必要になる。これに伴って、それぞれの建築業界で働く人材に対しても、これまでにない知識やアイデア、感性が問われる環境になっており、どれだけ自身の専門性を高められるかがより重要になってきている。

以上のような背景から、健康問題に関する専門性を有した、建築業界人材の育成は建築系専門学校において、今後の展望を担う重要な教育コンテンツの一つであると考えられる

1-3. 事業実施

1-3-1. 実施体制

本事業では、以下のような構成機関からの参画者により実施委員会及び開発部会を組織し、事業を推進した。

	構成機関の名称	役割等	都道府県名
1	合同会社LPエデュケーション	事業統括	東京都
2	中央工学校	評価・実証	東京都
3	日本工学院専門学校	評価・実証	東京都
4	東京デザインテクノロジーセンター専門学校	評価・実証	東京都
5	幸手看護専門学校	開発・評価・実証	埼玉県
6	東武医学技術専門学校	開発・評価・実証	埼玉県
7	一般社団法人日本環境保健機構	調査・開発・評価	東京都
8	一般社団法人シックハウス診断士協会	調査・開発・評価	東京都
9	一般社団法人寝室環境衛生管理協会	調査・開発・評価	群馬県
10	一般社団法人地域防災支援協会	開発・評価	東京都
11	NPO 法人先端医療福祉開発研究会	調査・開発・評価	東京都
12	～CS憩いの仲間～ 化学物質過敏症とその家族の情報交換会	調査・評価	埼玉県
13	環境アレルギー info and care 株式会社	評価	東京都
14	昭和建設株式会社	調査・開発・評価	神奈川県
15	幸和建设工業株式会社	調査・開発・評価	神奈川県

事業の実施体制（イメージ）

本事業では実施体制として

「実施委員会」「開発部会」「実証部会」の3組織を設置する。

各組織の概要は以下の通りである。

なお、当社は各組織の会議主催者として座長を務めると共に、事務連絡・経費管理・請負業者手配等の各種事務作業を担当する。

○ 実施委員会

構成員：本事業構成機関（教育機関、学識者、業界企業・団体）

役割：事業計画・事業活動方針の策定、部会への作業指示、活動内容の承認・評価、活動成果の評価

○ 開発部会

構成員：業界企業・団体、教育機関

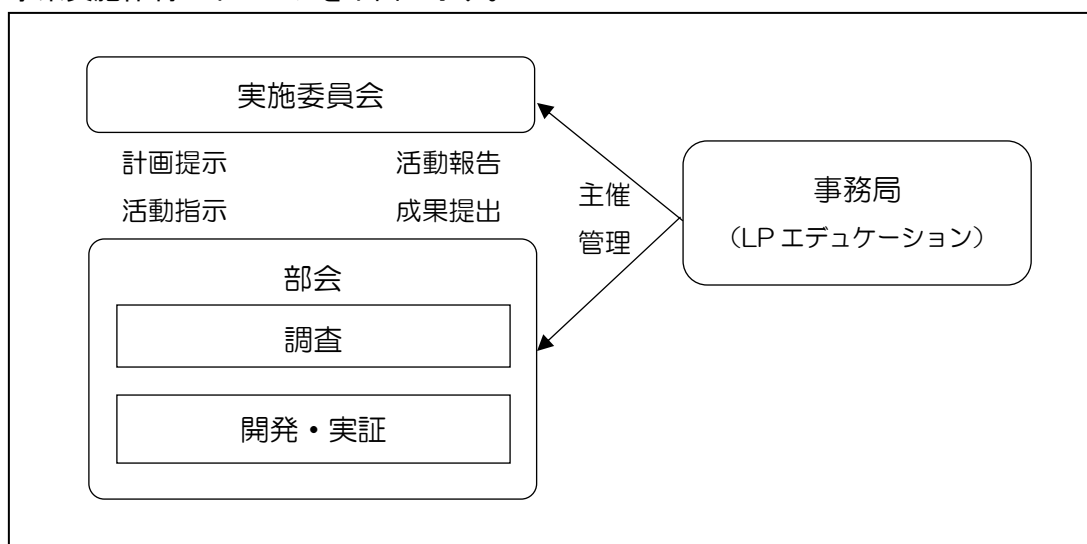
役割：カリキュラム設計、教材設計、開発教材評価・修正、開発報告書作成

○ 実証部会

構成員：業界企業・団体、教育機関

役割：実証講座企画・設計、実施結果分析、実証講座実施報告書作成

事業実施体制のイメージを下図に示す。



1-3-2. 実施内容

本事業は、平成元年に実施したアンケート調査を経て、今年度は以下の取り組みを実施した。

- ・実施委員会
- ・開発部会
- ・開発

- ① 「公衆衛生」についての講義・演習教材及び e ラーニングコンテンツの開発
- ② 「顧客要求分析・提案」についての講義・演習教材及び e ラーニングコンテンツの開発
- ③ 「実践 PBL」についての講義・演習教材及び e ラーニングコンテンツの開発

以下、取り組みの概略について報告する。

■ 実施委員会ならびに開発部会

事業を実施する上で設置する会議 ※複数の会議を設置する場合には、欄を適宜追加して記載すること。

会議名	実施委員会		
目的・役割	事業計画・事業活動方針の策定、部会への作業指示、活動内容の承認・評価、活動成果の評価		
検討の具体的内容	・事業全体のスケジュールや開発及び実証の仕様の承認、調査結果や開発成果の評価、成果物の承認などに関する討議		
委員数	16名	開催頻度	6回

実施委員会の構成員（委員）

	構成機関の名称	役割等	都道府県名
1	合同会社LPエデュケーション	事業統括	東京都
2	中央工学校	評価・実証	東京都
3	日本工学院専門学校	評価・実証	東京都
4	東京デザインテクノロジーセンター専門学校	評価・実証	東京都
5	幸手看護専門学校	開発・評価・実証	埼玉県
6	東武医学技術専門学校	開発・評価・実証	埼玉県
7	一般社団法人日本環境保健機構	調査・開発・評価	東京都
8	一般社団法人シックハウス診断士協会	調査・開発・評価	東京都
9	一般社団法人寝室環境衛生管理協会	調査・開発・評価	群馬県
10	一般社団法人地域防災支援協会	開発・評価	東京都
11	NPO 法人先端医療福祉開発研究会	調査・開発・評価	東京都
12	～CS憩いの仲間～ 化学物質過敏症とその家族の情報交換会	調査・評価	埼玉県
13	環境アレルゲン info and care 株式会社	評価	東京都
14	昭和建設株式会社	調査・開発・評価	神奈川県
15	幸和建設工業株式会社	調査・開発・評価	神奈川県
16	株式会社エム・ケー企画	開発・評価	神奈川県

開発部会の構成員

会議名	開発部会		
目的・役割	2021 年度「公衆衛生」、「顧客要求分析・提案」、「実践 PBL」の講義・演習教材及び e ラーニングコンテンツ開発		
検討の具体的内容	「公衆衛生」、「顧客要求分析・提案」、「実践 PBL」の講義・演習教材及び e ラーニングコンテンツ開発に向けた調査及び制作		
委員数	9 名	開催頻度	2 回

構成機関の名称		役割等	都道府県名
1	合同会社 LP エデュケーション	事業統括	東京都
2	一般社団法人日本環境保健機構	調査・開発・評価	東京都
3	一般社団法人シックハウス診断士協会	調査・開発・評価	東京都
4	一般社団法人寝室環境衛生管理協会	調査・開発・評価	群馬県
5	一般社団法人地域防災支援協会	開発・評価	東京都
6	NPO 法人先端医療福祉開発研究会	調査・開発・評価	東京都
7	昭和建設株式会社	調査・開発・評価	神奈川県
8	幸和建設工業株式会社	調査・開発・評価	神奈川県
9	株式会社エム・ケー企画	調査・開発・評価	神奈川県

実証部会の構成員

会議名	実証部会		
目的・役割	2021 年度「公衆衛生」、「顧客要求分析・提案」、「実践 PBL」のモデル講義の実施講義・演習教材及び e ラーニングコンテンツ開発		
検討の具体的内容	「公衆衛生」、「顧客要求分析・提案」、「実践 PBL」の（全 31 時間）のうち、20 時間程度を抽出し、協力機関専門学校の協力のもと建築系専門学生及び建築系専門学校既卒者を対象として実施する。 実証講座では実施前後においてアンケートを実施し、講座内で簡易的な成績評価も行う。講義・演習教材及び e ラーニングコンテンツ開発に向けた調査及び制作		
委員数	9 名	開催頻度	1 回

構成機関の名称		役割等	都道府県名
1	合同会社 LP エデュケーション	事業統括	東京都

2	中央工学校	評価・実証	東京都
3	幸手看護専門学校	開発・評価・実証	埼玉県
4	一般社団法人日本環境保健機構	調査・開発・評価	東京都
5	一般社団法人シックハウス診断士協会	調査・開発・評価	東京都
6	一般社団法人寝室環境衛生管理協会	調査・開発・評価	群馬県
7	昭和建設株式会社	調査・開発・評価	神奈川県
8	幸和建設工業株式会社	調査・開発・評価	神奈川県
9	株式会社エム・ケー企画	開発・評価	神奈川県

本事業では実施委員会を6回、開発部会を2回、実証部会を1回開催した。

2. 開発報告

2-1. 開発概要

本事業で開発する教育プログラムは、建築業界で働くすべての人材が対象である。住環境における室内環境の改善は業界全体として取り組まなければならない喫緊の課題であり、本事業の終了後、教育プログラムの普及展開については全国規模で構想していくことを基本方針とする。

なお本年度は「公衆衛生」、「顧客要求分析・提案」、「実践 PBL」の講義・演習教材及び e ラーニングコンテンツ開発に向けた調査及び制作を行い、併せて実証も行った。

講座の全体構成は以下の通りである。

●講師の選定

講義内容にふさわしい講師を以下の通り選定した。

科目	講師名	所属名
公衆衛生	塩田忠則	一般社団法人寝室環境衛生管理協会、一般社団法人シックハウス

		診断士協会
顧客要求分析	栗原位之	株式会社エム・ケー企画
実践 PBL	栗原位之	株式会社エム・ケー企画

2-2. コマシラバス

《公衆衛生》

学習時間	14 時間	
学習テーマ	公衆衛生	
学習目標	公衆衛生に関する全般的な知識や関連法規、建築といかに関わるかを学び、専門的知識・スキルを身につける。	
学習内容	E ラーニング	1-1 公衆衛生概論 1-2 公衆衛生 意義と歴史 1-3 感染症とその予防 1-4 経口感染 1-5-1 建築物環境衛生・行政論 1-5-2 建築物環境衛生・建築物の環境衛生 1-5-3 建築物環境衛生・ねずみ、昆虫等の防除 1-5-4 建築物における衛生的環境の確保に関する法律 【抜粋】 1-6 アレルギー害虫 1-7 洗浄と殺菌

《顧客要求分析》

学習時間	7 時間	
学習テーマ	顧客要求分析	
学習目標	顧客要求分析を理解し、について、専門的知識・スキルを身につける。	
学習内容	E ラーニング	1. マズラー欲求から顧客要求を考える [e ラーニング] 1.1 欲しいの段階 1.1.1 「売る方法」を考える時代の終焉 1.1.2 マズローの欲求5段階説 1.2 お客様のことを知る 1.2.1 心の豊かさ

		<ul style="list-style-type: none"> 1.2.2 コト売り 1.2.3 欲求レベルと消費金額 1.3 生理的欲求から見る顧客 <ul style="list-style-type: none"> 1.3.1 生理的欲求 1.3.2 生理的欲求のあるお客様 1.3.3 具体的アプローチ 1.4 安全の欲求から見る顧客 <ul style="list-style-type: none"> 1.4.1 安全の欲求 1.4.2 安全の欲求のあるお客様 1.4.3 具体的アプローチ 1.4.4 生理的欲求と安全の欲求 1.5 所属と愛の要求から見る顧客 <ul style="list-style-type: none"> 1.5.1 所属と愛の欲求 1.5.2 所属と愛の欲求のあるお客様 1.5.3 具体的アプローチ 1.6 承認欲求から見る顧客 <ul style="list-style-type: none"> 1.6.1 承認欲求 1.6.2 承認欲求のあるお客様 1.6.3 具体的アプローチ 1.7 自己実現の欲求から見る顧客
--	--	---

《実践 PBL》

学習時間	10 時間	
学習テーマ	実践 PBL	
学習目標	実践 PBL を理解し、専門的知識・スキルを身につける。	
学習内容	E ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 1. ヒアリングの準備・実施 <ul style="list-style-type: none"> 1.1 授業計画 <ul style="list-style-type: none"> 1.1.1 授業内容の概要 1.1.2 学習目標 1.1.3 進行計画例 1.2 講義資料 <ul style="list-style-type: none"> 1.2.1 演題課題 1.2.2 案件概略 1.2.3 ヒアリング実施記録フォーマット

	<ul style="list-style-type: none">2. クライアントの要望分析<ul style="list-style-type: none">2.1 授業計画<ul style="list-style-type: none">2.1.1 授業内容の概要2.1.2 学習目標2.1.3 進行計画例2.2 講義資料<ul style="list-style-type: none">2.2.1 演習課題2.2.2 「住宅における健康被害まとめ」シート 3. 室内空気測定提案書の作成<ul style="list-style-type: none">3.1 授業計画<ul style="list-style-type: none">3.1.1 授業内容の概要3.1.2 学習目標3.1.3 進行計画例3.2 講義資料<ul style="list-style-type: none">3.2.1 演習課題
--	--

3. 參考資料

「シックハウス」「アレルギー」「防災」「公衆衛生」「顧客要求分析」「実践 PBL」の講座を受講された方々のアンケートになります。その結果を受け、評価・分析したコメントになります。

《アンケート用紙例》

実証講座アンケート

項 目	シックハウス		
氏名			
職 業		年 齢	

Q：実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)

A:

Q：実証講座受講され、今後求められることは何か。

A:

実証講座アンケート

項 目	シックハウス		
氏名	岡 正弘		
職 業	建設業	年 齢	26

Q：実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)

A:正直、シックハウスに関してはあまり興味がなく、どのようなものか見当もつきませんでした。もちろんそういった法律があるのは知っていましたが、とりあえず「ある」くらいの認識でした。そういった面では、学ばせていただきよかったと感じています。課題としては、なんともいえませんが、まだまだ奥が深いのかなという面で、そのあたりも探れればなと感じました。

Q : 実証講座受講され、今後求められることは何か。
A : 求められることは、これがどのように通常の授業の中で盛り込まれ継続しながら学べるのか、それとも単発なのかわかりませんが、うまく取り込んでもらえればいいかなと思いました。

実証講座アンケート

項 目	シックハウス		
氏名	上堀和成		
職 業	学生	年 齢	19

Q : 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
A : 楽しく学べました。最初はどんなものかと思っていましたが、徐々に面白くなりました。シックハウスについて学ぶ場所が少ないのでよかったです。実証講座と聞いていたが、本格的な講座でよかったと思いました。
Q : 実証講座受講され、今後求められることは何か。
A : 対面式だともっと面白かったかなと思いました。

実証講座アンケート

項 目	シックハウス		
氏名	水落聡		
職 業	建設業	年 齢	27

Q : 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
A : ありがとうございます。 改めてシックハウスについて学べ感謝しています。講座は普通に進んだと思いますが、やはり質問もしたかったです。とはいえ最低限以上のことはしっかりと学べたと思っています。 化学物質のところなどは特に面白かったと持っています。
Q : 実証講座受講され、今後求められることは何か。
A : 一方通行の授業だと最低限のことは教えてもらえるが、それ以上になるとどうなのかと思いました。

実証講座アンケート

項 目	シックハウス		
氏名	長坂健太		
職 業	学生	年 齢	20

Q：実証講座を受講され、どう感じましたか。（有用性や課題など）

A：学校ではこんなに詳しく習っていないので、面白かったです。当然数字的な部分などは記憶できていませんが、概略が理解できたのはよかったです。特に法律の面は勉強になりました。シックハウスにかかわる法律がこんなにあるのかと知り、それらがまたつながっていることも知りました。

自分が不勉強なところもあり、理解できない部分もありましたが、全体的には楽しく学べました。

今後は質問もできる体制であればいいかなと思いました。

Q：実証講座受講され、今後求められることは何か。

A：DVD 受講の欠点だと思うのですが、やはり質問をしてみたいなというのはありました。

実証講座アンケート

項 目	シックハウス		
氏名	長迫美紀子		
職 業	学生	年 齢	19

Q：実証講座を受講され、どう感じましたか。（有用性や課題など）

A：講座、ありがとうございます。初めてのシックハウス研修で知らないことばかりでしたが勉強になりました。

本来は建築の業務を目指す者として知っておかないといけないことなのですが、授業のコマ数の関係でほとんど時間が取れないとのこと。しかし、大事なことなのでしっかり学ぶ必要があることがわかりました。

Q：実証講座受講され、今後求められることは何か。

A：双方向で学べたら楽しいかなと思いました。

実証講座アンケート

項 目	シックハウス		
氏名	濱田淳		
職 業	建設業	年 齢	25

Q : 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
A : 過去には建築について学んだときはほとんどシックハウスについて触れられることもなかったので、改めて知ることができました。ほとんど初めてのことばかりだったので内容的には面白かったと思います。 あとダニやカビについて深く検証されていたのはよかったです。どうしても作り手は作ってしまえば最後で、後の生活スタイルまで言及しないのでその点もよかったです。
Q : 実証講座受講され、今後求められることは何か。
A : 一方的に教えられる形でなく、双方向的であればなおよかったです。

評価・分析	<p>授業の内容については大半が良いという評価であったと思える。特にこの分野に関しては教えているところがまだまだ少ない(授業時間が取れない問題)ため、その点は評価してもらえていると思う。</p> <p>ただ意見の中で多かったのが、今回はネット配信での録画受講だったこともあり、「質問したかった」「双方向での意見のやり取りがしたかった」などが挙がりました。その点については、録画スタイルではなく生配信もしくは対面授業式の方がよかったと思う。</p>
-------	---

《アンケート用紙例》

実証講座アンケート

項目	アレルギー		
氏名			
職業		年齢	

Q : 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
A :
Q : 実証講座受講され、今後求められることは何か。
A :

--

実証講座アンケート

項目	アレルギー		
氏名	戸部健太		
職業	学生	年齢	21

Q: 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
A: アレルギーについて全般的に学べたのはよかったです。特に環境と密接に関連していることがわかり面白かったです。 授業テンポはゆっくりで、よかった部分と少し時間がかかっているという部分ありましたが、全体的にはよかったです。
Q: 実証講座を受講され、今後求められることは何か。
A: 多分知識もなく、わからない人にはこのテンポでもよかったのかと思いますが、なかなか全員に合わせるのは難しいですね。

実証講座アンケート

項目	アレルギー		
氏名	秋山聡		
職業	学生	年齢	20

Q: 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
A: アレルギーというと自分自身、花粉症くらいしか正直思い浮かばなかったのですが、よく考えるとあれもアレルギーかあというのが実感でした。さらにアレルギーを細かく分析して、それぞれの特徴や細かな部分までしれてよかったです。 なかなかアレルギーを教えてくれるところがないので、その点もよかったですかなと思います。
Q: 実証講座を受講され、今後求められることは何か。
A: やはり対面だとよかったなあと思う部分があります。質問したいこともありましたがやはり質問できないのは少し残念でした。

実証講座アンケート

項目	アレルギー		
氏名	浅野由香		
職業	学生	年齢	19

Q : 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
A: 私自身アレルギー体質で、毎年花粉の時期には困っています。また小さい頃は喘息もあったのでこの講座には関心がありました。もちろん学んだからと言ってアレルギー体質が治るわけでもないのですが、改善点やこうやって暮らしたらいいよという部分でためになりました。また私自身がそのアレルギーではないのですが、そのアレルギーによって苦しんでいる方がいることや寄り添わないといけないことも勉強になりました。これがいかに今学んでいることとリンクさせていくのかはまだはっきりわかりませんが、いいヒントになったと思っています。
課題はやはり他にも聞いてみたいことがあったのですが、DVD 上難しいのかなと思いました。
Q : 実証講座受講され、今後求められることは何か。
A : やはり先ほども書きましたが、質問できるようになればいいと思いました。多分、今回は DVD での学びでしたが、オンラインでされることもあると思うので(ただそれが収録済みのオンラインでは DVD と一緒ですが)、期待しています。

実証講座アンケート

項 目	アレルギー		
氏名	大久保由美		
職 業	学生	年 齢	20

Q : 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
A: 講習、ありがとうございました。 アレルギーについて、医学的な部分より、やはり生活環境に密接に関連しているところに興味がわきました。どうしてもアレルギーというと病気といった観点でしか学びませんが、それがそうではないという点がわかっただけでも面白かったです。 こうした機会がもっと増えればいいなと感じました。
Q : 実証講座受講され、今後求められることは何か。
A : 今後、いろんな場面でこうした機会が増えればいいなと思いました。

実証講座アンケート

項 目	アレルギー		
氏名	北野彩		

職 業	インテリアコーディネーター	年 齢	35
-----	---------------	-----	----

Q：実証講座を受講され、どう感じましたか。（有用性や課題など）

A：楽しかったという言葉です。知らないことだらけで自分自身の不勉強さに後悔しています。

まず建築関係とアレルギーの関わりという部分で、普段見た目のコーディネートばかりに目が行きがちなのが、そういう切り口もあるのかと勉強になりました。多くの方にこの講座を学んでいただければ、色々な切り口でお客様にもPRできるのかと思いました。課題というかDVDでの講習だとやはりプラスアルファの情報が聞けないのかと思いました。

Q：実証講座受講され、今後求められることは何か。

A：課題に部分でも触れましたが、DVDの講習のみでなく、生の講座で聞けない部分も聞いてみたいなと思いました。

評価・分析	<p>授業の内容に関しては大半が良いという評価であったと思う。先生の授業テンポが少し気になる部分も正直あったが、生徒からは特に問題もなく、受け入れられていた。特に昨今アレルギーの問題が言われる中で、いかに建築分野に取り入れていける課題だと思い、今回の取り組みを行ったので受け入れられていた点は評価できる。</p> <p>ただシックハウス同様、対面式での講座ではなかったので、生徒からすると質問したかったという声を多くいただいた。</p>
-------	--

《アンケート用紙例》

実証講座アンケート

項 目	防災		
氏名			
職 業		年 齢	

Q：実証講座を受講され、どう感じましたか。（有用性や課題など）

A:

Q : 実証講座受講され、今後求められることは何か。
A :

実証講座アンケート

項 目	防災		
氏名	加藤美奈子		
職 業	学生	年 齢	20

Q : 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
A : 非常に楽しかったです。最初は特に防災に興味はなく聞いていればと思っておりましたが、学んでいることと密接につながりがあることがわかりよかったです。知らないことばかりだったのですが、それがよかったのかもです。最初は退屈かと思っておりましたが、徐々におもしろくなりました。ありがとうございました。
Q : 実証講座受講され、今後求められることは何か。
A : 特にありませんが、もっと知りたいとは思いました。今回の範囲が防災のどのレベルかはわかりませんが、次のステップがあればまた受講したいです。

実証講座アンケート

項 目	防災		
氏名	最上由美		
職 業	学生	年 齢	20

Q : 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
A : 昨今の災害の多さに関心もあり、それがどのように建築分野とかかわるのか漠然と考えていましたが、少し明白になった気がします。すべて理解できたのかということそれはあ

りませんが、災害について改めて考え、それが今学んでいることに関わりのあることもわかりました。

災害に対応することを建築分野からでもできるのがわかりました。

ただ一方的に情報をもらうだけでなく、双方向から学べたらもっといいかなと思いました。

Q：実証講座受講され、今後求められることは何か。

A：双方向での学びがあればよりよくなるかなと思いました。

それでも最低ラインは学べるので、情報を得る、ただ知るということに関してはよいかかなと思いました。

実証講座アンケート

項目	防災		
氏名	今井洋子		
職業	建設業	年齢	36

Q：実証講座を受講され、どう感じましたか。（有用性や課題など）

A：講座、ありがとうございました。私は建設業に携わりながら、学生と一緒に学んでいますが、今回の取り組みは初めてでしたので、非常に関心がありました。

普段は建設業務に追われ、さらに私自身のキャリアアップのために学校に通いは始めましたが、通り一遍のことではなく、新たな切り口で学べたのがよかったです。

実証ということでしたが、これが様々な人の目に触れたら面白いのになと感じました。

Q：実証講座受講され、今後求められることは何か。

A：やはり対面式でないため、先生の言われている部分のニュアンスがつかみにくい部分もありました。

またこちらから質問もできないため、そのあたりに少し改善の余地があるのかと思いました。

実証講座アンケート

項目	防災		
氏名	村上達也		
職業	学生	年齢	21

Q：実証講座を受講され、どう感じましたか。（有用性や課題など）

A：わかりやすかったと思います。普段意識が薄らぎがちな防災に対して現在学んでいることとリンクさせ、興味がわきました。

一つ一つの項目を正しく理解できたかはわかりませんが、気持ち的に防災をやらなきゃという気持ちと学んでいることとしっかりつなげていければと思う。

あとやはり実技の部分が今後の課題かなと思いました。

Q：実証講座受講され、今後求められることは何か。

A：次のステップとして実技の面がしっかりさらに学べたらいい。

そうすればさらに興味がそそられるかと思いました。

実証講座アンケート

項目	防災		
氏名	柳生聡		
職業	学生	年齢	21

Q：実証講座を受講され、どう感じましたか。（有用性や課題など）

A：防災に関心があり受講しましたが、知らないことばかりだったので勉強不足を認識しました。表面的なことばかり今までは学んできたが、今後はもう少し深く掘り下げていければと思いました。

特に勉強していることとからみあえればいいのかと思いました。

最初は一方的に話を聞くだけだから退屈かともいいましたが、内容が面白かったので特に飽きはありませんでした。

Q：実証講座受講され、今後求められることは何か。

A：特にありません。

評価・分析	<p>防災に関しては国を挙げて様々な取り組みをしており、建設業に関しても取り組みは見られる。その中で今回の取り組みは、より身近に防災を感じてもらい、それがいかに業界で生かされるかを重点的に突き詰めている。</p> <p>また意外にも防災のことはわかっているようでも実は表面的な部分で、本質を理解していない生徒が多かった。そこで今後も基本的な部分から授業でも取り組めればいいのだが、カリキュラムの時間的に難しいという声もいくつか届いたのでそのあたりの改善は急がれる。</p>
-------	--

《アンケート用紙例》

実証講座アンケート

項目	公衆衛生		
氏名			
職業		年齢	

Q : 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
A:
Q : 実証講座受講され、今後求められることは何か。
A :

実証講座アンケート

項 目	公衆衛生		
氏名	大島信之		
職 業	建築業	年 齢	27

Q : 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
A:公衆衛生と建築が関わっていることがわかり、それだけでも十分満足のいく内容でした。特に今回受講させていただいた部分はその点が多いにあり勉強になりました。あとは一見建築とかかわりあいのない部分に関しては、最初は何で学ぶかなと思いましたが、最後まで聞くと納得いく部分もありました。
Q : 実証講座受講され、今後求められることは何か。
A : 公衆衛生という部分はかなり広いと聞いており、今回は特に建築部分と密接な部分が多かったと思いましたが、それ以外の部分も学んでもいいかなという気になりました。

実証講座アンケート

項 目	公衆衛生		
氏名	飯野由希子		
職 業	学生	年 齢	21

Q : 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
A: 楽しく受けることができました。というよりも知らないことが多く、聞くことに必死でしたがその分集中できたかなと思います。 今回は対面式で受けたのですが、最後に質問も受け付けていただき大変学ぶことが多かったと思います。
Q : 実証講座を受講され、今後求められることは何か。
A : 特にはなかったように思います。

評価・分析	<p>公衆衛生の分野は実は今回のコロナ禍でかなり関心が湧いた分野だと思う。特に空気質での公衆衛生に関しては学生たちもかなり関心が高かったとように見受けられる。</p> <p>もちろん公衆衛生は空気質だけでなく様々な分野でかなり幅広いので、それらをより建築分野に特化して教える必要がある。知らないことも多いという意見もたくさんあり、そのあたりの見直しは必要と感じた。</p>
-------	--

《アンケート用紙例》

実証講座アンケート

項目	顧客要求分析		
氏名			
職業		年齢	

Q : 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
A:
Q : 実証講座を受講され、今後求められることは何か。
A :

実証講座アンケート

項目	顧客要求分析・提案		
氏名	後藤耕一郎		
職業	21	年齢	学生

Q：実証講座を受講され、どう感じましたか。（有用性や課題など）

A：顧客要求を分析することの楽しさを学べた気がします。こうすれば喜んでもらえるとか、逆にこうすれば相手を不快にさせるという部分について考えさせられました。もちろん事例ではありますが、その中で今後の考え方を学ぶことができたと思います。また提案部分でも上記と同じことが言え、なかなか難しいことだけで、これができなければという気持ちにさせられました。

Q：実証講座受講され、今後求められることは何か。

A：時間的な都合もあったと思いますが、もっとこれを聞いてみたいなのがありました。

実証講座アンケート

項目	顧客要求分析・提案		
氏名	佐川絵里		
職業	建設業	年齢	26

Q：実証講座を受講され、どう感じましたか。（有用性や課題など）

A：普段お客様のことを考え実行しているつもりが、具体的事例を挙げられ、理路整然とした話を聞くと自分自身まだまだ普段やっていることは不十分なんだなと感じさせられる講座でした。

もちろん具体的事例が普段のこととマッチはしていませんでしたが、考え方としては取り入れてみたいなと思いました。

Q：実証講座受講され、今後求められることは何か。

A：今度は自分自身の経験していることも事例として上げてもらえればよりよく分かったかなと思います。

評価・分析	学生にとって顧客という概念がまだ薄く、自分たちの取ったカリキュラムを学ぶのに精いっぱいという声もいただいた。しかし、実際には顧客は存在するわけで、その辺りを理解させることから始まったので、逆にこちら
-------	---

	<p>がそういう疑問があるのかと学ぶこともあった。 あとは事例をもっと増やし、いろいろな方に対応させる必要があると感じた。</p>
--	--

《アンケート用紙例》

実証講座アンケート

項 目	実践 PBL		
氏名			
職 業		年 齢	

Q : 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
A :
Q : 実証講座受講され、今後求められることは何か。
A :

実証講座アンケート

項 目	実践 PBL		
氏名	山口京子		
職 業	建築業	年 齢	36

Q : 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
<p>A: 実践 PBL という事自体がわからずに臨んだのですが、講師の説明で少し理解し、授業が進むうちに何となくつかめてきました。答えありきでなく、答えにたどり着くまでのプロセスが大事なんだと理解しました。</p> <p>そうするうち色々な質問が、自分の中で整理でき、自分なりの答えを導き出したのかなと思っています。</p>

Q : 実証講座受講され、今後求められることは何か。
A : 実践 PBL ということ自体を知らなかったので最初は戸惑いましたが、最終的にはこうなると理解できました。 とりあえず実践 PBL ということが初めから理解できてればよりスムーズには入れたかなと思います。ただこれは自分自身のことなので講座には関係ないかもしれません。

実証講座アンケート

項 目	実践 PBL		
氏名	飯野由希子		
職 業	学生	年 齢	21

Q : 実証講座を受講され、どう感じましたか。(有用性や課題など)
A: 公衆衛生と今回の実践 PBL を受講しましたが、公衆衛生の部分は今学んでいる部分と密接にかかわるため、面白かったですが、実践 PBL に関しては初めての内容なので最初は何となく受講していました。 しかし、聞いてるうちになるほどなという部分も出てきて、最終的にはこういう考え方があるんだと納得しました。またこちらが問題点を発見し、それを解決に至らしめるという部分で面白かったです。それをリードしていただき、楽しさがわきました。
Q : 実証講座受講され、今後求められることは何か。
A : 時間的な部分もあったと思いますが、考える時間も少し長ければと思いました。

評価・分析	<p>こちら顧客要求分析・提案と被る意見があったが、やはり実践 PBL というものに不慣れで、最初はなかなか意見も出づらく、その辺りの改善は必要と感じた。また考える時間がもう少し欲しかったという点も人により長かったり、短く感じたりするので、その辺りの見直しも必要と感じた。但し、徐々に意見も出始め、最終的にはその意見をまとめるのに時間を要すなど進め方はよかったのではないかと感じた。もちろん課題に関してはもっといろんな分野があっても面白い。</p>
-------	--

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、合同会社 LP エデュケーションが実施した令和 3 年度「専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト」の成果をとりまとめたものです。